



さの あつし
佐野 孜
(富岳会)

畜産業の発展を支援する方向性について

問 ①観光牧場や体験牧場の経営。 ②6次産業と福祉事業を組み合わせた共同経営方式。

部長 ①経営は様々な類型があり、観光農場や体験農場等は、市民が農業に親しむ機会となり畜産業のイメージアップにもつながると見込む。②6次産業と福祉事業を組み合わせた共同経営方式は、導入例あるが、導入の是非の考え方が異なるため、市では積極的に働きかけていない。

問 農業後継者を育成する教育施設の整備。

部長 教育ファームの資格取得農場が市農協管内に1か所、富士開拓農協管内に6か所あり、小学生から新規就労を希望する研修生まで受け入れて、環境整備は充分に出来ている。

家畜ふん尿の処理対策

問 ①牧場経営者独自の方法。 ②共同経営に

よる堆肥化。 ③個人の企業経営による堆肥化。 ④家畜ふん尿バイオマス発電施設と併用による堆肥化。 ⑤林業との提携による、杉やヒノキの家畜舎敷き材の牧場への提供。

部長 ①加熱による高速堆肥化装置の導入例が1件あり、今後注目。 ②国庫補助事業を活用して整備する計画に関わる協議が進行中。市では事務手続等の助言を行っている。 ③市内で稼働しているのは1社。厳しい条件を遵守しながら製造していただいている。 ④同様事例の実績等を確認しながら可否について研究中。 ⑤木材加工業者は販売先がほとんど固定されているため、新たに入手することが困難な状況。

問 畜産堆肥の使用による野菜特産物の開発。

部長 家畜堆肥は健全な土づくりに有効。酪農と耕種農家が連携した富士宮版スマート農業推進事業で、特産野菜が注目されるよう推進。

意見 堆肥を使ったサツマイモ栽培で、おいしいツルを大量収穫した。考え方を換え、植物に語りかけると、いいものができるのではないかと。



さの としお
佐野 寿夫
(公明会)

中学校での制服の選択制導入の検討は

問 各学校の検討状況は。

教育長 市内公立中学校8校において、制服の機能性や多様性に配慮した制服の導入に向けて検討を進めている。

問 校則の見直しの検討状況は。

教育長 8校において、校則の見直しが行われている。具体的には、衣替えの時期を指定しないとか、靴下の色を「白・紺・黒」も認める変更をした学校もあると報告を受けている。

問 保護者や地域の方々への周知状況は。

教育長 市内4校において、保護者や地域の方々へ制服の選択制導入について説明を行っている。具体的には、PTA運営委員会や学校評議員会などの場で意見聴取、取組状況の説明、選択制導入についての提案を行っている。

問 早期に制服の選択制を導入すべき。

教育長 市内のある中学校において、令和4年度から制服の選択制を導入すると報告を受けた。具体的には、令和4年1月に行う入学説明会で、新1年生に説明をすると同時に、新2年・3年生にも説明を行い、その後、すぐに購入できるよう、業者や販売店との打ち合わせを終えていると報告を受けている。つまりこの学校では、早ければ令和4年1月から制服の選択制が始まる。

